

総会速報発行委員会 発行
kyodan-sokai sokuho

第39回

日本基督教団総会

2014年10月28日(火)～30日(木)

速報

No.2

2014.10.29 12:00



石橋秀雄 再選議長

教団総会1日目
夜に議長選挙が行われた。当日議事終了前に、議長選挙結果が報告され、石橋秀雄議長が再選された。石橋議長は挨拶に立ち「皆さんの祈りに支えられて、前総会期重責を担うことができ感謝。」

再選を重く受けとめている。37回、38回と、伝道に熱くなる教団から、伝道に燃える教団へと訴えた。そこからさらに、信仰の一致に基づく伝道の推進へと向かうように、これからも祈り、お支えいただきたい」と述べた。続いて新議長のために小西望議員が祈禱を捧げた。

【本投票の結果】

投票総数……………370票
有効投票数……………366票
無効票数……………4票
石橋秀雄……………203票
呂原宗男……………142票
(以下省略)



佐々木美知夫 新副議長

議長選挙結果報告承認の後、ただちに副議長選挙が行われた。2日目に朝に開票作業が行われ、副議長選挙結果が報告され、佐々木美知夫議員が選出された。石橋議長は、退任する伊藤瑞男副議長への謝辞を述べた。

また、佐々木新副議長は挨拶に立ち「議場が副議長のつとめに選んでくださったことに畏れを覚えつつ、御心と受けとめて担っていききたい。みなさんのお祈りとお支えをお願いしたい」と述べた。続いて伊藤副議長のために長山信夫議員、佐々木新副議長のために眞壁蔵議員が祈禱を捧げた。

【本投票の結果】

投票総数……………371票
有効投票数……………368票
無効票数……………3票
佐々木美知夫……………195票
呂原宗男……………106票
(以下省略)

逝去者記念礼拝

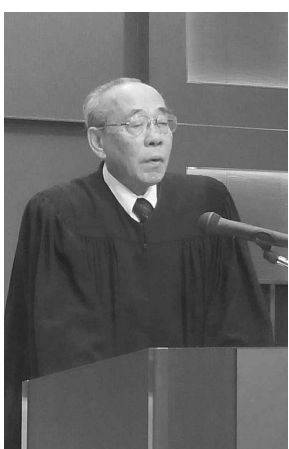
村田 元牧師による追悼の辞

丸一日を総会に費やす総会2日目の29日は、逝去者記念礼拝で始まった。
村田元牧師(群馬町伝道所)が、この2年間に逝去連絡のあった教師121名、宣教師13名の氏名を読み上げ、コリントの信徒への手紙一の9章19～27節の御言葉に基づき「主の召しに應えて」と題して説教した。

「名前を読み上げながら、逝去教師のことを思い起こす時は、色々な思いが交錯する。
人間は概ね、相手が自分のために変わってくれることを望むが、なかなか、自分が相手のために変わるということはできないものである。
精神科医である柏木哲夫の言葉に『愛するということとは、相手のために変わる能力である』とあった。クリスマスの季節に読んだこともあるが、愛するということを示されたように思

い、イエス・キリストを思い浮かべた。まことの神である方が、まことの人の子となってくださった。その生涯は、仕えられるためではなく、仕えるために、自分の命を与えるためであった。相手のために変わるということから考えても、驚くべき事柄である。

最後に、走るべき道のりを走り終えた天つみ民と、主の召しに應え、喜びをもって、福音宣教のために仕える地にある民とが、共に神を讃美する感謝の祈りがささげられた。



共に聴いた聖書箇所においてパウロは、『相手のために変わる』ということは何回も繰り返す。これは、何とかして、何人かでも救うためであるが、相手のために変わるの、大

来賓挨拶

韓国基督長老教会

チエ・ブオク副総会長

ファン・ヨンデ議長、リ・ホーソン副議長、ペー・テジン総幹事から、宜しく。

47年に亘って、韓国基督長老教会は、貴教団とパートナー関係を築き上げることができ感謝している。貴教団が1967年に韓国三教会と協約を結んで下さり、共に発展することが出来た。

3年前に東北地方で起きた、地震・津波・原子力発電所事故の際、大韓イエス教長老会、基督教大韓監理会と共に、貴教団と深い連帯で結ばれた。また復興プロジェクトでの協力、支援のとりまとめを行い、被災地の方々に寄り添うこともできた。

私たちの教団は南北統一のために毎週月曜日に祈禱会をはじめた。また、セウォル号沈没事件での犠牲者遺族のために、慰めと平安を祈り、事件の調査を徹底的に

行えるよう動いている。祈りに覚えていただきたい。

台湾基督長老教会

チエン・ウエンジェン副議長

貴教団と台湾基督長老教会（PCT）は永きに亘り宣教パートナーとして旅して来た。喜びと悲しみの時を共にする中で、関係が深められてきた。

三つの経験を分かち合いたい。一つ目は、PCTは2010年から「一人が一人に」の宣教運動を開始した。信徒たちが、霊的に養われ、奉仕、宣教、より良い関係の構築を経験するためである。二番目は、「神を愛し、隣人を愛しなさい」との最も重要な掟を生きるべく、信徒たちが献身、献金、力を献げる生活になるように計画を実施している。三番目は、「あなたがたは行って全ての民を弟子にしない」との使命に関することである。PCTの宣教は1864年から始まって、病院、学校の設立、社会奉仕を行って来た。1970年から、人権、社会正義に務めて来た。PCTが台湾人と共に喜び、共に泣いて暮らすことにより、教会は、台湾人の希望になる。

最後に、来年はPCT創立150周年であり、様々なお祝いの行事がある。記念式典に、参加して

いただきたい。

大韓イエス教長老会

チエ・ヨンナム副総会長

3年半前に東日本に起きた大地震、津波、原子力発電所による放射能流出に対して、残念な気持ちを禁じ得ない。日本国民がこの苦しみから、神の愛によって癒されることを願っている。貴教団主催の「東日本大震災国際会議」に参席し、私たちが核問題に対する警戒心を持つことになった。

昨年行われた、世界教会協議会（WCC）第10回釜山総会への貴教団の参加に感謝する。私たちは、2012年から2022年まで「癒しと和解の生命共同体10年」というビジョンをもち、世に神の正義や平和が実現されることに励む。来年2015年、太平洋戦争が終わって70周年を迎える。東北アジア地域における平和と、南北の平和統一のために努力していく。貴教団も「ヘイトスピーチ」などに苦しんでいる在日韓国人のことを理解し、助けることを願う。

アメリカ合衆国長老教会

イム・チュンシク東アジア担当幹事

ウィリアム・モア宣教師
アン・モア宣教師

第221回総会の議長、ヒース・ラタ長老から宜しく。アメリカ合衆国長老教会は、貴教団との協力を極めて大切な関係と位置づけ、共に成し遂げた宣教の働きに感謝をささげる。この信仰の旅路を日本の兄弟姉妹と共に続けられるよう、楽しみにしている。時が良くて悪くても強固な連帯と協力を目指し、私どもは貴教団を支

え続ける。神の家族とは、地理的な距離や歴史的なへだたりにも妨げられない、聖霊によって息吹を吹き込まれ、強い絆で結ばれた家族だからである。神の御栄えのため、貴教団が豊かに祝福されるよう祈る。

合同メソジスト教会

小海 光宣教師

合同メソジスト教会監督代表ロースマリー・ウェナー、世界宣教部総幹事トマス・ケンパー、並びに、世界4万の教会に代わり、平和の挨拶をお伝えすることが出来る祝福を感謝する。

合同メソジスト教会は、その前身である米国メソジスト監督教会の時代より、日本伝道、宣教活動への召命を受け、1873年、初代の宣教師ロバート・マクレイを送りだして以来、教会はもとより、学校、社会福祉施設を通して、キリストの福音と愛を伝えるために仕えて来た。多くの宣教師の活動の過程で、日本基督教団との関わりと、信頼があったことは言うまでもない。現在も、合同メソジスト教会から派遣されている宣教師12名は、日本各地でミッション活動に取り組んでいる。東日本大震災では、各地から集められた献金を、篤い祈りと共に、教団を通して送らせていただいた。

将来に向けての私たちの祈りは、2005年の日北米宣教協力会解散の後切れていた、日本基督教団と合同メソジスト教会との間の宣教協約関係を回復し、ミッションパートナーとして、日本の地で主なる神の御業のために仕えて行くことである。

連帯福音宣教会

ユルゲン・ライヒェル総幹事
（代読：サビーネ・クルーガー宣教師）
連帯福音宣教会（EMS）の交わりはまず祈りの共同体としてある。ガーナ、インド、韓国、その

他、多くのEMSのメンバー教会が貴教団と思いを共有し、団結して祈っている。

今年7月に貴教団が示した大いなる歓待と友愛は心に強く残っている。日本の教会とEMS所属する教会の絆が2世代にわたって築き上げられて来た。悲しみと喜びを共にし、新しい試みに目を向けようとしてきたことが、わたしたちを強く結びつけた。

EMSは、東日本大震災の後、貴教団の牧会体験の実話から、多くのことを学んだ。神と人・自然・文化との結びつきへのわたしたちの理解を強めた。東日本大震災国際会議で採択した「仙台宣言」を広めるために、2015年6月に予定されているドイツ教会大会で貴教団の座席を確保した。EMSの多くの教会が、復興のために祈りを合わせている。

シリアで傷ついた子どもたちへの支援を感謝する。EMS議長マリアンヌ・ワーグナーとともに、聖霊のみ名によって、日本の人々と教会への挨拶とする。

在日大韓基督教教会

チヨウ・ジュンレ総会長
イ・キョン工総会長夫人

主にある兄弟姉妹と日本基督教団の上に主の豊かな恵みと導きがあるよう祈る。私たちを取り巻く状況は、悪い方に変化している。特にヘイトスピーチの問題は深刻である。人種差別的な扇動が繰り返されている。在日大韓基督教教会は、この問題に対処するため、世界教会に呼びかけ、2015年11月に、第3回マイノリティ問題と宣教戦略国際会議を開催する予定である。小さな教団である私たちにとって大きなチャレンジとなる。協力をお願いする。

1984年に結ばれた宣教協約関係は、30周年を迎え、記念式典を行うことが出来た。これまでの歩みが信頼関係を積み重ねる歩みであったならば、これからの歩みが、神の平和を担い実践して行く

ものとなることを信じる。

日本キリスト教協議会

小橋孝一議長

「伝道に熱くなる教団」、「伝道に燃える教団・教会」、そして今回は「伝道する教団の建設」と、はっきりとした目標を掲げて歩んでいる日本基督教団に、心からの賛同と深い敬意を表す。NCCは、これから共通する目標に向かって共に歩んでいきたいと願っている。

NCCの使命は、日本の諸教会、キリスト教諸団体が「共に歩む」ことに寄与すること。互いに信頼関係を築いて「共に進む」ことが重要になっている。伝道、社会での発言・活動、国際関係において、共に担うべき課題は山積している。日本基督教団がどのような歩みをするかは、重要な意味を持っている。

この総会が御言葉に聴き従った協議と決定をし、日本基督教団と日本のキリスト教を更に前進させる総会となるよう、心から祈る。

「全国信徒会再結成・発起人会」開催案内

◎日時 10月29日（水） 総会第2日目
18時30分～19時45分
◎場所 池袋メトロポリタンホテル3階「光」

「信徒交流の集い」は、今年、第5回目となります。この集いは「全国信徒会」への願いをもって始められ、この度、信徒たちの願いが形を現し、準備が整い、発起人会を開催するに至りました。既に発起人登録をされた議員以外の方にもご出席いただけますので、未登録の方もお気軽にご出席ください。なお、発起人登録は当日受付も行っております。